

東北学院大学は、4月より大きく変わった。これまでの泉、多賀城キャンパスを廃止して、仙台市の都心にある五橋新キャンパスを開学したので、土樋・五橋のキャンパスのワンキャンパスは、学生の賑わいであふれている。また地域総合学部、情報学部、人間科学部、国際学部という新設4学部を設置し、時代の要請、地域の課題解決のための教育・研究も盛んになってきた。新型コロナウイルス感染症も5類に分類され、3年間の長きにわたって分断されてきた学生たちは、対面授業、部活、サークル活動を通じて次第に従来のキャンパスライフを取り戻している。



出席者数全国一を誇った大学礼拝は、土樋のラーハウザー記念東北学院礼拝堂と、泉キャンパス礼拝堂から移設されたパイプオルガンの荘厳な響きのもと五橋の押川記念ホールにおいて毎日10時15分より行われ、新入生を中心に出席者も徐々に回復してきている。また、特筆すべきは今年度よりTGCF(東北学院大学クリスチャン・フェローシップ)といわれる学生たちの英語礼拝や音楽礼拝が自主的に開催されるようになり、大学聖歌隊と並んで、キリスト教の香り漂うキャンパスが誕生しつつある。

主よ。あなたによって仙台に建てられた東北学院大学が、キリスト教人格教育の学び舎として、教育研究の拠点として、若者の成長を促し、多くの人々に用いられ、地域社会のために役立つことができますように、あなたが導いてください。

教会暦(キリスト教の暦)と特別礼拝

教会暦とは、イエス・キリストの生涯の出来事を記念したキリスト教会の暦です。東北学院でもこの暦に合わせて特別礼拝を行っています。教会で行われているこれらの礼拝は、どなたでも参加できますので、近隣の教会にぜひ足を運んでみてください。

イースター (復活日)

[3~4月頃]



イースターは、私たちの罪のために十字架にかけられたイエス・キリストが3日目に復活したことを祝う、教会暦の中でもっとも古い、キリスト教の大事な祝日です。

ペンテコステ (聖霊降臨日)

[5~6月頃]



クリスマス、イースターと並ぶキリスト教三大祝日のひとつです。最初の弟子たちに聖霊が降り、世界中で宣教活動を始めて教会が作られていたので、「教会の誕生日」とも呼ばれています。

花の日 (こどもの日)

[6月第2日曜日]



花の日はアメリカの教会で6月にこどもを集めて特別な礼拝を持ったことが始まりと言われています。教会や学校ではこの日に花をもちより、自然の恵みを神に感謝し、子供のための礼拝を守り、病人などを慰問する行事となっています。

宗教改革記念日

[10月31日]



1517年の10月31日にマルティン・ルターがヴィッテンベルグ城教会の扉に『95か条の論題』を貼り出したことをきっかけに、宗教改革が起こったことから、この日が記念日として制定されました。

収穫感謝日

[11月第4日曜日]



秋の実りや神様からいただいている恵み、また与えてくださっている神さまに感謝する日です。アメリカでは最初の清教徒の習慣に従い、11月の第4木曜日に収穫感謝祭が守られ、日本の多くの教会やキリスト教主義学校でも収穫感謝の日として礼拝を守ります。

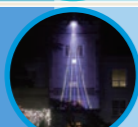
アドヴェント (待降節)

[11月後半から]



12月25日の約4週間前の日曜日からクリスマス・イブまでをアドヴェント(待降節)と言い、イエス・キリストの誕生を待ち望み準備する期間として過ごします。また、多くの教会では24日にイブ礼拝(キャンドルサービス)を行います。

クリスマス イルミネーション点灯式



イルミネーションの点灯がアドヴェント期間の始まりを告げます。中高、榴ヶ岡高校、大学で行っています。礼拝後、イルミネーションの点灯を見守り、イルミネーションの光に主のご降誕を思います。

クリスマス (降誕日)

[12月25日]



イエス・キリストのご降誕を記念しお祝いする日です。イエス様は今から約2,000年前にユダヤのベツレヘムの馬小屋で生まれました。世界中の何十億人もの人々が、この日を一緒に祝います。教会では19日から25日のいずれかの日曜日に、毎年クリスマス礼拝を守ります。

東北学院宗教センター便り

いのち ひかり あい

LIFE LIGHT LOVE

秋号

2023年9月第6号
東北学院宗教センター発行



幼稚園 花の日 大学土樋キャンパス訪問



榴ヶ岡高校 墓前礼拝



大学礼拝 五橋キャンパス



中学校・高等学校 礼拝



幼稚園 合同礼拝



大学 スプリングカレッジ



榴ヶ岡高校 ボランティア活動

Contents

- 東北学院幼稚園
- 東北学院榴ヶ岡高等学校
- 東北学院中学校・高等学校
- 東北学院大学
- 宗教センター所長あいさつ
- 教会暦(キリスト教の暦)と特別礼拝

「いのち ひかり あい」第6号

発行：東北学院宗教センター
発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司
〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1
TEL：022-354-8310
Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
宗教センター HP→<https://www.tohoku-gakuin.jp/ch/>



LIFE

LIGHT

LOVE

みんなで集まれ、一緒に歌おう♪

学校礼拝の再開～コロナ以前に戻りつつ

幼稚園

幼稚園教頭
海老名 直子



2023年4月、長かったコロナ禍を乗り越え、マスクを外しての生活が始まりました。この3年間、幼稚園で過ごす間もマスクをして、行事や活動も変更や制限を余儀なくされてきました。久しぶりにマスクを外した子どもたちの笑顔はきらきらと輝き、表情も生き生きとしています。毎週金曜日にホールに集まり、みんなでお祈りをする合同礼拝では、コロナ禍前のように対面式に椅子を並べて座れるようになり、讃美歌も歌えるようになりました。年少の子どもたちは、年長のお兄さん・お姉さんの姿を見て小さな手を組み、お祈りをして讃美歌を覚えていきます。礼拝の中でも、幼稚園生活の中でも、一人ひとりの表情がよく見えることで、目を合わせて気持ちがより通じ合っていると感じています。

また、神さまからそれぞれ賜物をいただいているというお話を聞いたとき、「神さまからプレゼントもらっているよ」「おれも」「わたしも」とにこにこ答えていました。これからも子どもたち一人ひとりの神さまからの賜物を生かして、お互いのことを考えて過ごしていきたいと思っています。

「園児の言葉」

幼稚園教諭
菅野 直緒美

4月に入園し、神さまと初めて出会った年少組の子どもたち。クラスや合同礼拝でのお話の中で、神さまを知り、神さまに愛されていることや守られていることを知りました。遊んでいる時に「神さまってやさしいんだよね」と話したり、聖句や讃美歌を覚えて嬉しそうに暗唱したり歌ったりする姿も見られます。合同礼拝で「バベルの塔」のお話を聞いて、「けんかしないほうがいいよね」とつぶやいていた子どもがいました。神さまのお話を聞いて、感じたことを素直に言葉にできる子どもの姿から、いつも神さまが守り育ててくださっていることを実感しました。

また、上の園庭で遊んでいる時、セミの鳴き声が聞こえてきて、「どこにいるんだろうね」と子どもたちと探していた時のことです。「あそこの木にいるんじゃない?」「あの辺から聞こえるね」などと話していると、「神さまがセミを連れてきてくれたんだね」と言った子がいました。神さまが造ってくださったこの世界で、さまざまな生き物たちと一緒に生きていることを経験を通して知っていきます。私たち保育者も子どもたちのように豊かな感性をもち、子どもたちと日々祈りながら歩んでいきたいと思っています。



榴ヶ岡高等学校

宗教主任
西間木 順



4月より学年(年次)毎、礼拝堂で礼拝を捧げています。教室での礼拝は、礼拝堂から動画配信にて、捧げています。礼拝堂と各教室と場所は異なっていますが、同時に、心を一つにして礼拝を捧げています。礼拝では、「マタイによる福音書」を読み進めています。

5月15日の創立記念日に、4年ぶりに、シュネーダー先生の墓前で礼拝を捧げることができました。生徒会執行部の生徒が、中央式典に参列することもできました。

新型コロナウイルス感染症が第5類に分類されたことに伴い、教会 礼拝出席の奨励を再開いたしました。聖書の授業で教会出席についてのガイダンスを実施しました。

「ボランティア活動で学べること」

2年
針生 航太

私は学校で行っているありのまま舎帯封糊付けのボランティア活動に参加しています。

ボランティア活動では、人々の生活や社会福祉に関わることで多くのことが学べると共に、社会貢献が出来ると思はれました。ボランティアでは人々の生活に関わることや社会福祉を通じて、自己の成長は学びの機会を多く与えてくれると思います。高校でのボランティアでは、多くの人との出会いの場であり他者との価値観を共有することができます。

ボランティアとは他者のために自主的に行動するものだと思います。そしてボランティア活動に積極的に参加することで、次世代のリーダーに必要なものが補えると私は考えています。

私はボランティアをすることによって他者から感謝され自己満足感や幸福感を得ることができました。また自己肯定感や生きがいなどをボランティアによって感じることが出来ました。



中学校・高等学校

宗教主任
松井 浩樹



コロナ5類移行を受けて1週間交代で1800人余りの生徒を半分ずつ、礼拝堂に入れて礼拝を捧げています。讃美歌もフルに歌います。新入生である中学1年、高校1年は新鮮な気持ちで礼拝にのぞみ、よい習慣がつくられています。さらに月に1回のペースで生徒主体の賛美礼拝、英会話教員による英語礼拝を企画、実施しています。

「賛美礼拝」

宗教部副部長
鈴木 雅光

本校では今年度から朝の礼拝に「賛美礼拝」を設け、2ヶ月に1回のペースで音楽を中心とした礼拝を行っています。1回目は「イースター」にちなみ「こんな美しい朝に」(水野源三作詞/武善和作曲)を音楽部員が奉唱しました。2回目は「聖母マリアのエリサベト訪問の祝日」にちなみ「カンタータBWV147」(J.S.バッハ作曲)より「主よ、人の望みの喜びよ」を音楽部員と高1有志で30名ほどの聖歌隊を編成し奉唱しました。また、司会・聖書朗読、オルガンも生徒が担当するなど、生徒にとって礼拝がより身近なものになってきています。共学化2年目を迎え、今後とも様々な場面で生徒の活躍の場が増えていってくれることを願います。



大学

宗教部長
原田 浩司



2023年度の五橋キャンパスの開学に伴い、大学礼拝は10時15分からの開始となりました。泉キャンパスで用いられてきたパイプオルガンが毎日の礼拝会場である押川記念ホールに移設され、奏楽の美しい音色を響かせています。新しいホールには、大型ディスプレイで当日の聖書箇所、賛美歌、説教担当者などが表示されます。礼拝開始前から集まっている学生たちには、これからの宗教センターや宗教部の催しをディスプレイでお知らせしています。ホール内のすべての座席には、今年度から日本聖書協会共同訳の聖書と、1954年版の讃美歌、そして讃美歌21が設置されていますので、在学学生はキリスト教の講義がない日も安心して大学礼拝に参加できます。このホール棟の3階に宗教センターのオフィスがあります。どうぞ気軽にお声がけください。

「TGCF (Tohoku Gakuin Christian Fellowship : 東北学院クリスチャンフェローシップ)」

宗教センター主事 佐藤 由子

「TGCF (東北学院クリスチャンフェローシップ)」は、キリスト教活動を軸にした交わりを行える場として、2023年度より活動が始まっています。

前期は、学生による司式で讃美や証しなどが献げられるミュージックサービス(音楽礼拝)と、仙台の宣教師の方々と英語で交わるイングリッシュカフェ(国際交流)を木曜日の午後に行いました。音楽礼拝では、コンテンポラリー・ワーシップ・ミュージックというジャンルの讃美歌を中心に、聖歌隊の献曲や新しい讃美歌などを共に歌い、学生からのメッセージを聞きます。国際交流では、アイスブレイク、自己紹介、グループ懇談、自由懇談など、それぞれの英会話を楽しみます。宣教師の方からのお話しの時間も、ちょっとした外国の雰囲気味わいながら、学部間交流の時間にもなっています。

